

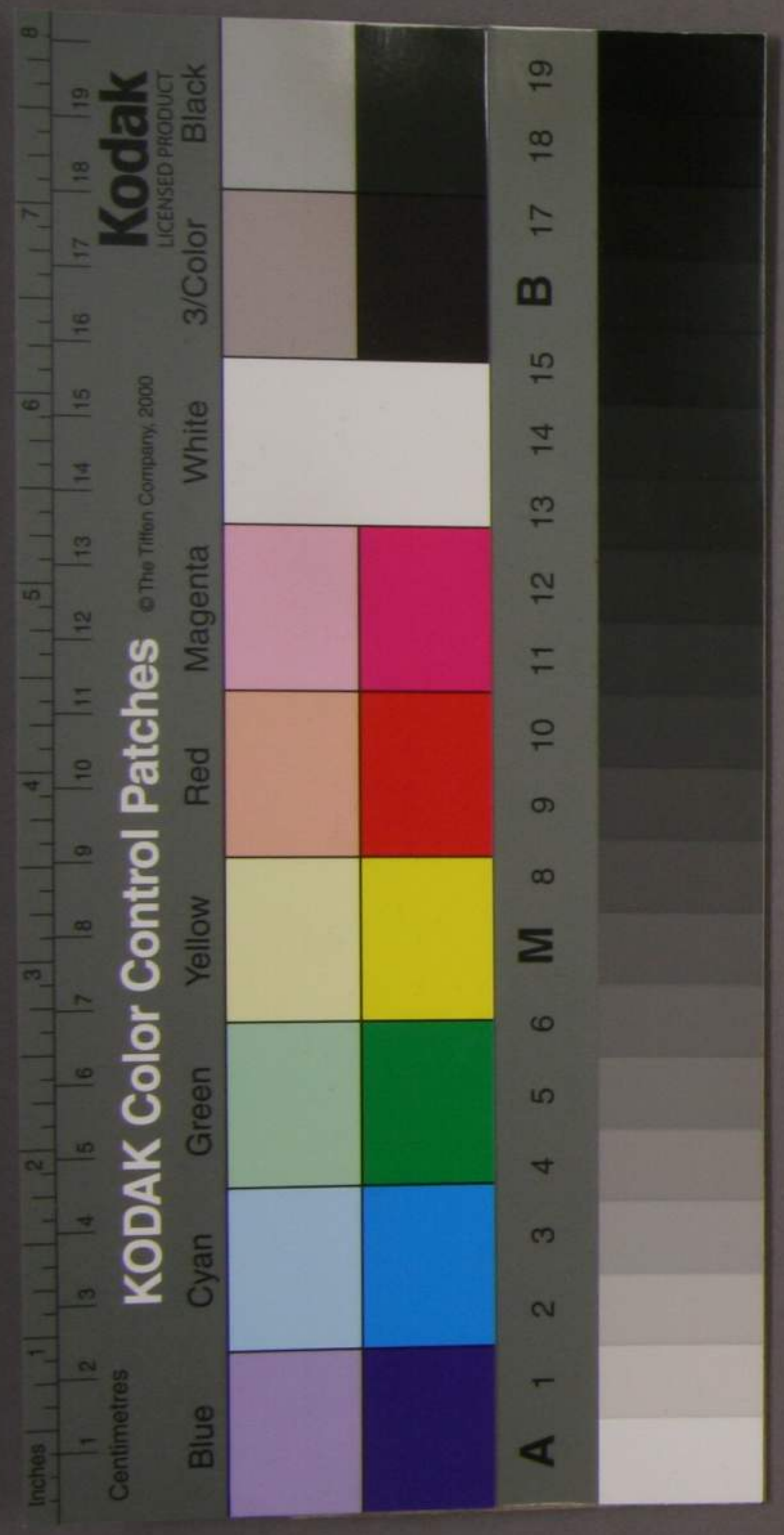
114  
A 1290



舊藩所藩士族授産其為之資金法貸與  
相成度義之付稟請書

當縣舊藩所藩士族之義ハ明治三庚午年  
該藩ニ於テ從前祿高ノ多寡ニ拘ハラズハ一年  
米三十石俵石二年ハ一年米拾五俵石改同年  
十月ニ至リ是迄下サレタ家祿ラ之榮ニ慰勞扶持  
トシテ士族米之拾俵卒米拾五俵ラ下ニ置カレ  
ヘキ旨ヲ達シ同年十一月歸農高ノ法ヲ該ケ士族  
卒慰勞扶持ヲ返上ニ農籍ハ歸入或ハ商業志  
願ノ者ハ願ノ上救助トシテ左ノ之ニ通差別ヲ以テ  
下渡多云々ト布達シ民々其方法ハ之ニ段ニ  
分テ士族ニシテ當午年中  
明治三年  
中  
郡  
初  
度  
願  
出  
ル  
モ  
ハ  
山地五反歩(三年無稅)并ニ金五拾兩ヲ給與

大正十一年四月  
大隈侯爵邸寄贈



之外ニ墾田望之者ハ地一反歩迄ヲ下渡シ辛未  
六月迄ニ<sup>二</sup>度願出ツルモノハ山地ニ反歩<sup>一</sup>（ニケ年  
無税）并金ニ拾兩ヲ給與之外ニ墾田望之者ハ  
ニ反歩迄ヲ下渡シ同年十二月中迄ニ<sup>三</sup>度願出  
ツルモノハ山地ニ反歩<sup>一</sup>（一ケ年無税）并金拾兩ヲ  
給與之外ニ墾田望之者ハ一反歩迄ヲ下渡スヘク  
又商業志願之者ハ初度金百兩ヲ給與シニ度  
金六拾兩ニ度金三拾兩ヲ給與スヘク又卒ニシテ  
農商ニ歸セント願フ者ハ共ニ初度金五拾兩ニ度  
金三拾兩ニ度金拾兩ヲ給與スベシ<sup>（此出願ノ速ニ  
ヨリ給與スニ度ニ</sup>  
<sup>ニ速減セシハ速ニ歸農商  
セシメントラハ促セシナリ</sup>若シ此期限ニ後ルモノハ  
士卒共ニ一切救助ヲナサハレシ尚出願セサルモノハ  
情實ヲ叙シ品ニヨリ慰勞扶持ノ内引米申付

ヘシトノ法ニシテ頗ル強誘ノ所置ニ及ニ明治四  
辛未年諸藩ヲ廢セラレ更ニ膳所縣ヲ置カル、  
ノ時ニ至リテハ既ニ概ニ農商ニ歸入シ僅ニ士卒  
四拾餘戸ヲ殘存スル時ニ方リ該縣ニ於テ更ニ  
慰勞扶持ヲ減殺シ其翌年申年ヨリ士六十二  
俵<sup>ハ</sup>拓<sup>ニ</sup>卒<sup>ハ</sup>六<sup>ニ</sup>俵<sup>ニ</sup>改ムヘキ旨ヲ布達セシ  
ニ尚四拾餘戸ノ士卒ハ依然原籍ニ存セルヨリ  
舊習ヲ固執セルモノナリトシテ強テ農商ニ歸着  
セシメン<sup>ト</sup>ラ<sup>ハ</sup>大藏省ニ稟申セリ然ルニ志願ナキ  
モノハ強テ歸農商セシムル義ハ不相成トノ指令  
之レアリシニ付此一部分ニ於テノミ慰勞扶持  
減殺ヲ受クルト雖モ終ニ士籍ヲ離ルニ至ラヌ  
尋テ該縣ヲ廢シ當縣へ合併セラレ其翌明治

壬申年二月に至り各縣貫屬ノ内歸田法  
施行ノ義ハ差山メラレ後旨公布アリシヨリ未々全ク  
農商ニ歸入シ果サバルノ情實アルモノ等追々復  
族シ去ル明治九年ヲ以テ残ラス原籍ニ復歸  
セシメラレ家祿ハ明治四年未年中舊膳所縣  
改正高田十士ハ四石八斗卒ハ二石四斗ノ割合ヲ  
以テ給與セラレ後該士族卒ニ於テハ農商ニ  
歸入セシハ舊縣ニ於テ慰勞扶持減殺ノ布達  
榮行以前ニ係リ士ハ拾貳石卒ハ六石ヲ奉還シ  
各農商ニ歸セシヨリ今般復籍被仰付ニ  
於テハ家祿モ亦舊ヲ奉還セシ高ヲ給セラレ  
ヘシト云ヒ或ハ慰勞扶持ナルモノハ歸田勸奨  
ノ旨意ニ出テタルモノニシテ家祿ハ既ニ明治三

庚午年ハ舊藩ニ於テ一祭シタルカ故ニ歸田法差山  
メラレ復籍被仰付上ハ其祭停以前ノ高ヲ  
賜ルヘシト云ヒ舊々數頗數十回ニ及ブト雖モ元來  
此家祿ハ舊膳所縣ヨリ士ハ四石八斗卒ノ  
二石四斗ヲ改正高トシテ當縣ニ引繼キシニ  
其キキタルモノニ付懇々説諭ヲ加フルモ敢テ服従  
セザルニ付其筋ニ度々相伺及次第モ有ニテ  
及得共九年百廿二號公布アル以上ハ詮議ニ  
及ハレザル旨ニ付其趣相達及後終ニ右措置  
ハ當否ヲ縣廳ニ論及スルニ至ルヲ以テ各年其  
情實ヲ詳述シ其筋ニ於テ願情一應御詮議  
相成至當ノ仰御指令度段太政官ハ上申  
後安云ル明治九年第百貳拾三號布告ノ旨モ

有之一切採用不相成旨御指令有之右之趣  
尚又諭達ニ及フト雖モ其苦情今日ニ解ケス  
尤モ現今該士族ノ拜受セル金祿公債ノ金額  
ハ三百拾五圓元対斗及百五拾五圓  
元斗當ル石ノ二類ニシテ利金ハ一々年貳拾貳圓  
五匁ト拾圓八拾五匁トニシテ之ヲ一戸一月ニ  
割當ツレハ壹圓八拾四匁ト九拾五匁ノ二種  
ニシテ實ニ生計ノ一端ヲモ補フニ足ラス之レヲ  
元ノ拾貳石ト六石トヲ給與スルニ比スレハ士ノ金  
祿公債證書金高一戸ニシテ三百六拾五圓  
ト利金一々年貳拾五圓五拾匁減シ卒ノ  
同ク一戸ニシテ貳百貳拾五圓ト利金一々年拾五  
圓七拾五匁ヲ減シ該士族七百戸數ノ減額ヲ

通算スレハ原籍復歸以降金祿御制定マテ  
五ヶ年間ノ祿高凡九万圓金祿公債證書ノ  
金高貳拾壹万餘圓ニシテ之ヨリ生スル別段  
ノ利金ヲ二十個年ニ積算スレハ四拾四萬餘圓  
トナリ之ヲ統計シテ凡七拾七萬餘圓ノ大數ヲ  
得ルヲ以テ士族輩ノ一意之ニ眩惑シテ着意  
志ル、能ハサルモ亦其故ナキニ非サルナリ抑該藩  
祿制ノ改革タル全國無比ノ酷薄ヲ極メ事實  
惻然ニ堪ヘサルモノアリ而シテ家祿ノ事タル既  
ニ如何トモスヘカラザルニ付當縣ニ於テハ右家祿  
ノ款願マルニ拘ハラヌ曾テ相應就産ノ道ヲ  
與ヘ目下ノ困苦ヲ救ハンナラ圍リ百方焦慮スト  
雖モ素ヨリ多少ノ資本ヲ要スヘキ事件ニ付

容易ニ見込相立兼々安窮人慰窮ヲ加へ感迫  
ノ情状日一日ヨリ甚シキ勢ニ有之然シテ士族授  
産、義ニ付テハ本年五月故内務卿ヨリ御内達  
ノ旨ニ有之旁舊職所藩士族ノ如キハ前頭比類  
ナキ難難ニ陥リ不幸中ノ不幸ヲ極メタモ分  
合能特殊ノ御詮議ヲ以テ資金貸與ノ恩典  
ヲ仰キ速ニ授産ノ事業ニ着手仕度就テハ  
其方法等該族一般ノ現状ニヨリ萬々考量  
必妥前途力食ノ目的ヲ確立シ之ヲ永久ニ  
維持セシムルニハ可成不動産ニ就キ農業ニ  
従事セシムルヲ以テ最モ恰當ノ事業トナス  
幸ニ縣下琵琶湖邊ニハ耕地埋築ニ適當ノ  
地不少之ヲ埋築スルニ山野荒蕪ノ開墾ニ

比スレハ或ハ多少資本ノ増額ヲ要スト雖モ埋築其  
年ヨリ力作ニ應ジテ相當ノ收穫アリ且竣切ノ  
後他ノ肥料ヲ要スルノ少ナク只湖中ノ藻泥ヲ採  
テ之ニ充テ充分ノ收穫アルヲ以テ其利益大ニ  
山野荒蕪ノ開墾ト異ナル安アリ仍テ別紙丁号  
見込ノ地百二十町歩ヲ埋築シ田畝ヲ拓キ農業  
ニ従事セシメントス又其農業ニ従事シ得ヘカラ  
サルモノハ相當ノ授産法ヲ設テ別紙甲号規  
則ノ如ク之ヲ實際ニ施行シ各自ニ其目的ヲ  
達セシメントス仍テ先ツ此ノ七百餘戸ノ士族ヲ  
三種ニ概別シ恒産アリ常職アリモノト他管ニ  
轉籍セシモノトノ百戸ヲ除キ残り六百戸ヲ以テ  
授産ヲ要スル部分トナシ且其開田地ニ移住

セシムヘキモノト移住セシムヘカウサルモノトヲ折半シ各自  
ニ與フルモノノ事業ニ對シ要スル處ノ資本別紙乙号  
豫算ノ通り合金貳拾壹萬圓ニシテ之ニ特典ノ  
貸與ヲ仰キ内金拾六萬圓ヲ以テ農業ニ從事  
スルモノ、授産資本トシ残金五萬圓ヲ以テ他ノ  
一方ニ對スル授産ノ資本トス其仕拂、如キハ別紙  
乙号豫算内譯ニ通ニシテ其五萬圓ハ追テ  
確定ノ見込ヲ相立更ニ稟申可仕積ニ有之條  
伏シテ冀クハ前陳ノ金額貳拾壹萬圓ヲ舊帳所  
藩士族授産ノ名義ニ對シ不幸艱難ノ状況深ク  
御諒察ノ上特殊ノ御査議ヲ遂ケサセテ非常  
ノ恩典ヲ以テ無利息三十個年据置三十一個年  
目一時返納ノ積リ御貸與相成度尤内金拾六万

圓ニ懸ニ於テ別紙甲號規則第七條八兩條ノ通  
考分致シ同而豫算ノ方法ヲ以テ年賦ノ收入  
ニ尚殖利ノ方ヲ相設ケ一ハ受産者ノ負擔ヲ輕  
クシ一ハ返納ノ期限ヲ速カニシ只管授産ノ實切  
ヲ奏シ度仍テ親シク實際ノ事情等具申、為  
大書記官酒井明出京後分巨細尚同官員直ニ  
繕申可仕條宜布前段稟請ニ趣御採擇  
相成度此段具申也

明治十一年十月

滋賀縣令龍手田安定

内務卿伊藤博文殿

近伸本文實際ノ情状ハ今般  
御巡幸之際親シク奏聞仕其後若倉右大臣  
大隈井上両参議等特ニ御咨詢有之尚洋志  
面伸仕置々後ニ清座及宗政陸添申之也

甲 辨

抑之舊賜所藩士ノ縁割ニ於ケル立藩中非常ノ  
改革ヲ被ムリ漸次困蹙ニ陥リ現時ノ景況實ニ  
惘諒ニ堪ヘサルモノアリ仍テ當縣ニ於テモ曾テ乾産ノ  
道ヲ與ヘ之ヲ困迫ノ中ニ救フノ方法ヲ計畫スルニ到  
底高ニ其他ノ活動事業ニ從事セシムルモ決シテ  
永遠ニ保持シ得ヘカラスルハ之ヲ實驗ニ徴シテ昭々リ  
故ニ必ス靜産ヲ以テ生計ノ根柢ト為サ、ルヘカラス仍テ  
管内ニ於テ開拓適應ノ地ヲ調査スルニ章ニ琵琶  
湖ハ沿岸ニ寄洲アリ又池沼アリテ之ヲ埋築スル他ノ  
山林原野ノ荒蕪ヲ新開スルト異ニシテ埋築其年ヨリ  
力作相應ノ收穫ヲ得ヘキニ付適當ノ場所ヲ擇ヒ  
善干丁歩ヲ埋築シ之ヲ以テ舊賜所藩士族就

産ノ基礎タラシメンコトヲ豫定シ今般其品ニ特殊ノ  
恩典ヲ仰キ該士族輩授産ノ名義ニ對シ善千萬  
圓ノ代價與テ諸ト將サニ實施シ着手スルアラントス仍テ  
耕地ニ移住ミアルモノハ左ノ規則ニ定ムルモノ手續ヲ  
履ミ移住ヲ願ヒ出ツヘシ而シ其或ハ現地ニ移住シ農  
業ニ従事スル能ハサル情状アルモノハ別ニ恩典代價与  
金ノ一部ヲ割キ此輩授産ノ資本ニ給セントス依テ  
其規則ヲ示フ左ノ如シ

第 一 章 総 則

第 一 条

一 此特典ヲ被ムルモノハ舊藩所藩士族ニ現時當縣  
在籍ノモノニ限ルヘシ

第 二 章

現地ニ移住シ耕地ニ従事  
セントスルモノハ事

第 二 条

一 今 新 田  
願出ツヘシ  
但割當ツル耕地ノ數ハ豫定シカタシト至モ凡一戸  
五反歩ヲ目的トシ三反歩以上ヲ給スヘシ

第 三 条

一 移住セント欲スルモノハ第 二 条ノ手續ヲナシ許可ヲ  
得タル日ヨリ五ヶ月以内ニ現地ニ引移ルヘシ若シ故ナク  
此期限ヲ經過シ移住ヲ怠ルモノハ許可ノ切ナキモノ  
トス

但移住スルモノハ本籍ヲモ其地ニ移スハ白論タル



産ノ基礎タラシメンコトヲ豫定シ今般其品ニ特殊ノ  
恩典ヲ仰キ該士族輩授産ノ名義ニ對シ善千萬  
圓ノ代價與テ諸ト將サニ實施シ着手スルアラントス仍テ  
耕耘ニ務ミマルモノハ左ノ規則ニ定ムルモノ手續ヲ  
履ミ移住ヲ願ヒ出ツヘシ而シ其或ハ現地ニ移住シ農  
業ニ従事スル能ハサル情状アルモノハ別ニ恩典代價与  
金ノ一部ヲ割キ以輩授産ノ資本ニ給セントス依テ  
其規則ヲ示フ左ノ如シ

第 一 章 総 則

第 一 条

一 此特典ヲ被ムルモノハ舊藩所藩士族ニ現時當縣  
在籍ノモノニ限ルヘシ

第 二 章

現地ニ移住シ耕耘ニ従事  
セントスルモノハ事

第 二 条

一 今般政府ノ特典ヲ請ヒ并借セシ授産資本金ヲ以テ  
新開セル地面ヲ耕耘シ實際農業ニ従事セントスル  
モノハ曾テ該クルモノ士族授産世話役ヲ經テ縣廳ニ  
願出ツヘシ

但割當ツル耕地ノ數ハ豫定シカタシト至モ凡一戸  
五反歩ヲ目的トシ三反歩以上ヲ給スヘシ

第 三 条

一 移住セント欲スルモノハ第 二 条ノ手續ヲナシ許可ヲ  
得タル日ヨリ五ヶ月以内ニ現地ニ引移ルヘシ否ニ故ナク  
此期限ヲ經過シ移住ヲ怠ルモノハ許可ノ切ナキモノ  
トス

但移住スルモノハ本籍ヲモ其地ニ移スハ白論タル

授産  
公撰  
本件

豫定シ今般其品ニ特殊ノ  
授産ノ名義ニ對シ善千萬  
實施者年スルアウントス仍テ  
規則ニ定ムル事ノ手續ヲ  
之而ノ其或ハ現地ニ移住ニ農  
相状アルモノハ別ニ恩典貸与  
授産ノ資本ニ給セントス依テ

規則

条

賜所藩士族ニ現時當縣

現地ニ移住シ耕植ニ從事  
セントスルモノハ事

条

謂フ許借セシ授産資本ヲ以テ  
實際農業ニ從事セントスル  
族授産世話役ヲ經テ縣廳ニ

敷ハ豫定シカタト至モ凡一戸  
ニ及步以上ヲ給スヘシ

条

第一條ノ手續ヲナシ許可ヲ  
以テ現地ニ移住ルハシ善シ故ナラ  
任ラ怠ルモノハ許可ノ切ナキモ

本籍ヲモ其地ニ移スハ白論タル

授産世話役ハ今般該件ヲ舉行スルニ付同族ノ  
公撰ヲ以テ多票ノ者五名ヲ舉テ世話役ニ命テ專ラ  
本件ニ從事セシム

ヘシ仍テ引移リタルトキハ直ニ該村戸長ノ奥印アル  
書面ヲ以テ其旨縣廳ニ届出ツヘシ右移住願ノ者  
ヲ各地ニ分派スルノ方法ハ返テ相達スヘシ

序 四 条

一 移住者ニ割當タル地所ハ地券ヲ交付シテ所有ノ  
權ヲ与フヘシ

序 五 条

一 移住ノ耕耘ヲナス地面ハ缺下、年季二十五ヶ年ヲ  
與フヘシ

序 六 条

一 前条缺下、年季明キ后尚三十ヶ年ハ祖ノ半  
ヲ減スヘシ

序 七 条

一 移住 〔要領ノ根拠トシテ〕  
入金 〔要領ノ根拠トシテ〕  
但后年返納ヲ要セサルモノトス

序 八 条

一 割當タル地所ハ其埋蔵ニ係ル入費ヲ計算シ移住  
者ノ并借金トシ証書ヲ縣廳ニ納レシムヘシ  
但証書ハ縣廳ニ於テ定ムル変ノ書式ニ準シ  
確ナル保証引請人ヲ連署セシムヘシ

序 九 条

一 前条ノ并借入金ハ移住ノ翌年より左ノ表面ノ割合  
ヲ以テ年賦上納スヘシ  
但天災ニ罹リ年賦金ノ上納ヲナシ能ハサル年柄モ  
アルヘキニヨリ其筋ニ於テハ若干年間ノ据置ヲ請ヒ

ヘシ仍テ引移リタルトキハ直ニ該村戸長ノ奥印アル  
書面ヲ以テ其旨縣廳ニ届出ツヘシ左移住願ノ者  
ヲ各地ニ分派スルノ方法ハ返テ相達スヘシ

序 四 条

一 移住者ニ割當タル地所ハ地券ヲ交付シテ所有ノ  
權ヲ与フヘシ

序 五 条

一 移住メ耕耘ヲナス地面ハ缺下、年季二十五ヶ年ヲ  
與フヘシ

序 六 条

一 前条缺下、年季明キ后尚三十ヶ年ハ正祖ノ半  
ヲ減スヘシ

序 七 条

一 移住スルモノハ家屋敷料并農具料トノ一戸ニ付  
金五拾圓ヲ給與スヘシ  
但后年返納ヲ要セサルモノトス

序 八 条

一 割當タル地所ハ其埋菜ニ係ル入費ヲ計算シ移住  
者ノ并借金トシ証書ヲ縣廳ニ納レシムヘシ  
但証書ハ縣廳ニ於テ定ムル変ノ書式ニ準シ正  
確ナル保証引請人ヲ連署セシムヘシ

序 九 条

一 前条ノ并借入金ハ移住ノ翌年ヨリ左ノ表面ノ割合  
ヲ以テ年賦上納スヘシ  
但天災ニ罹リ年賦金ノ上納ヲナシ能ハサル年柄ニ  
アルヘキニヨリ其届ニ於テハ若干年間ノ据置ヲ請ヒ

此条  
ノ間ニ

十八直ニ該村戸長ノ奥印アル  
廳ニ届出ツヘシ右移住願ノ者  
方法ハ返テ相達スヘシ

條  
所ハ地券ヲ交付シテ所有ノ

條

ハ缺下年季二十五ヶ年ヲ

條

后尚三十ヶ年ハ正祖ノ半

條

材料并農具料トノ一戸ニ付

セナルモノトス

條

條ニ係ル入費ヲ計算シ移住

ノ縣廳ニ納レシムヘシ  
於テ定ムル定ノ書式ニ準シ正  
ヲ連署セシムヘシ

條

ノ翌年より左ノ表面ノ割合

金ノ上納ヲナシ能ハサル年柄モ

於テハ若干年間ノ据置ヲ請ヒ

此条縣廳ヨリ移住者ニ對シテハ給与ナリトモ本省ノ縣廳  
ノ間ニ於テハ別紙兩端見込ノ通り返納スヘキモノトス

置キ移住者ヨリハ左表ノ割合ヲ以テ返納セシメ相  
當殖利ノ方法ヲ設ケ之ヲ并借元資ニ加ヘ返納ニ  
充ツヘシ仍テ元資ノ高ニ相當スル返ニ達スルニ於テ  
戻ハ条証書面ノ金額ニ拘ラス移住者ノ年賦  
上納金ヲ特免スルコトアルヘシ

|   |     |      |      |   |      |   |      |   |      |   |        |
|---|-----|------|------|---|------|---|------|---|------|---|--------|
| 一 | 年賦  | 初年   | 二    | 三 | 四    | 五 | 六    | 七 | 八    | 九 | 後      |
| 及 | 年賦  | 〇    | 二石五斗 | 口 | 二石五斗 | 口 | 二石五斗 | 口 | 二石五斗 | 口 | 表中米價   |
| 歩 | 賦九斗 | 〇    | 五斗   | 口 | 六斗   | 口 | 七斗   | 口 | 八斗   | 口 | ハ二石二斗四 |
| 二 | 凡收穫 | 二石五斗 | 口    | 口 | 二石八斗 | 口 | 三石二斗 | 口 | 四石五斗 | 割 |        |
| 付 | 代價  | 十石五斗 | 口    | 口 | 十石五斗 | 口 | 十石五斗 | 口 | 十石五斗 | 口 |        |

一非常天災ニ罹リ年賦金ヲ上納スル能ハサル情状アル  
トキハ取糾ノ上猶豫スルコトアルヘシ

第十條

第十一條

一地所ハ第四條ノ如ク所有ノ權ヲ與フト雖モ前條  
年賦金上納完了セサル中ハ地券ハ之ヲ本廳勸業課  
ニ領置スヘシ

第十二條

一年賦上納金上納完了セシムル其土地ハ本人ノ自由ニ  
任スヘシ故ニ第九條ノ年賦ニ拘ハラズ返納申出ルモ  
妨ケナシ

第十三條

丁年賦金ハ毎翌年一月二十五日迄ニ相納ムヘシ

第十四條

一移住ノ者ハ年賦金上納完了セサル中ハ故ナク他ニ  
移住シ又ハ其地面ヲ書入賃入賣買等ヲナスコトヲ

許サス

第 十 五 条

一前条年限中ニ耕耘ヲ怠リ供付ケヲナササル下及ヒ  
懶惰ヨリ荒敷ニ屬セシムルトノ旨決メアルヘカラサル旨  
ノ誓詞ヲ出タスヘシ

但天災ニヨリ無仕付トナリタルトキハ速ニ届出テ  
検査ヲ受クヘシ

第 十 六 条

一不得止事故アリテ他ニ移住セントスルカ又ハ耕地ヲ  
他人ニ譲リ渡サント願フモノハ情状ヨリ許可スル下  
アルヘシ

但本文ノ場合ニ於テハ拜借金ヲ一時返納セシ  
ムヘシ

第 十 七 条

一故ナク年賦金上納ノ期限ヲ愆ツカ又ハ第 十 四 条  
第 十 五 条ノ事目ニ違フトキハ其次第ニヨリ地券ヲ  
没収シ第 十 五 条 給与金ノ返納ヲ申付ケ耕地ヲ  
取揚クルコトアルヘシ

第 十 八 条

一移住ノ上ニ地元市村ノ人民ト異ナルナク悉皆  
其地ノ制度ニ服スヘキハ勿論タルヘシ

第 十 九 条

一割當タル地所ハ第 二 条 但書ニ如シト雖モ移住者ノ  
都合ニヨリ自費ヲ以テ他ニ裁及費ヲ耕耘スルモ素ヨ  
妨ケナキモノトス

第 三 章

移住ニ能ハサル情状  
アルモノニ接産ノ事

第二十条

一耕地新開ノ地ニ移住シ實際耕作ニ從事シ能ハ  
サル情状アルモノニ對シ今度貸借金ノ一部ニ割キ  
恰當ノ事業ニ從事セシムルノ資本ニ充ツヘシ

但實際恒産ニ就キ別段積産ヲ要用トナス  
ヘカラサル輩ハ此限ニアラサルヘシ

第二十一条

一此資本ヲ活用スルニハ此部ニ屬セル士族一團ナリ  
協同結合スヘシ而シ此一團中公撰ヲ以テ惣代善干  
名ヲ置キ惣代ノ内又幹事一名ニ撰ニテ諸般ノ  
統括ヲナサレムヘシ

但此一團中ニ於テ協同結合セル中合其他都テ  
規定トナスヘキ條款ハ速カニ不調無産ノ認可

ヲ受クヘシ認可ヲ經サルモノハ實施スルヲ許サス

第二十二条

一此一團ニ於テハ近傍開拓又ハ農工業製造所或ハ  
家畜牧畜等ノヲ起スヘシ

但一人一己ノ事業ニ關係スヘカラス

第二十三条

一此一團ニ於テ起サントスル変ノ事業ハ速カニ之ヲ研  
究シ着手ノ方法施行ノ規則損益ノ豫算并并  
借入金返納ノ見込トヲ詳明ニシ資本貸与ヲ縣廳ニ  
願ヒ出ツヘシ縣廳ニ於テハ其官法豫算其他ノ適  
否ヲ審査シ且人員ニ照比シ相當ノ事業ナリト認定  
スルトキハ之ヲ許可スヘシ

第二十四条



一前条ノ手續ヲ以テ資本ノ并借ヲ為ストキハ抵証トシ  
其金額ニ相當スル公債証書ヲ縣廳ニ差出スヘシ  
但其公債ヨリ生ズル利子ハ本人ニ相渡スヘキハ  
勿論タルヘシ

第二十五条

一此一團ニ於テ着手セントスル事業ニ仍リ若干ノ地所  
ヲ要スル片官地ニ相當ノ場所アリテ他ニ差支ニル  
ナキニ於テハ事柄ヨリ無地代貸液シヲナスコアル  
ヘシ

第二十六条

一此一團ノ事業ハ都テ惣代ノ名義ヲ以テシ一部分  
又ハ一己ノ事業ニ混淆スヘカラス

第二十七条

一此一團ノ惣代又ハ幹事等ノ俸給ハ其結合資  
金ヨリ支出スヘシ

但俸給ノ額ハ兼テ縣廳へ申出兼認ヲ受ク  
ヘシ

第二十八条

一此一團ノ事業ニ係ル計算ハ月々表面ニ製シ縣  
廳ニ差出スヘク又毎年西度ニ七朋損益ノ精算  
ヲ以テ利益配當ノ高ホ詳明ナル表面ヲ製シ是  
六夕縣廳ニ差出シ共ニ其時ニ兼認ヲ受クヘシ

第二十九条

一此一團ノ事業ニ對シ并借スル金ノ金額返納ハ  
凡三十一ヶ年ヲ過クヘカラサル見込ヲ立ツヘシ

第四章 追加

第 三 十 条

一章二章第三章ノ事業共ニ永ク縣廳ノ保護ヲ加フヘキハ勿論ナリト雖モ殊ニ并借入金ノ返納ノ完全ニ至ラサル中ハ縣廳勸業課中ニ委員ヲ置キ懶惰ニ流レ或ハ不注意ヨリシテ失敗ヲ取ルホノ患ナカラシムルタメ常ニ督勵監護セシムヘシ

第 三 十 一 条

一此規則ハ實際ニ就キ尚改正増補スルコトアルヘシ

乙 号

并借金支拂豫算

一金貳拾壹万圓

并借元資金

但無利息ニメ并借ノ年ヨリ三十ヶ年間据置三十一ヶ年自ニ至リ一時返納

内

金拾六萬圓

是ハ甲号規則第二章ニ當タル移住者ニ對スル授産資金

此譯

金拾四萬五千圓

是ハ移住者三百戸ト見積リ一戸四反歩宛ラ給シ毫反歩ノ埋築入費百貳拾圓強

ニテ百二十町歩ノ物額如此豫算ノ明細  
ハ別紙丁号ノ通り

金壹万五千圓

是ハ前同様移住者三百戸ニ對シ甲号規  
則第二章第七條ノ給與金一戸五十圓宛  
ニテ如此

金五万圓

是ハ移住シ能ハサルモノ即チ甲号規則  
第二章ニ當ルモノニ對シ授産資金但事  
業ノ目的及遣拂損益豫算込納方法等ハ  
追テ實際起業ノ目的相立更ニ上申ノ積  
計金リニ付茲ニ除ク

以上

丙

号

甲号規則第二章ニ當ル移住者ノ同章第八條ノ  
通り拝借義務ニ係ル耕地埋築入費金同第九條  
ニ拠リ年賦收入并ニ殖利豫算書

一金拾四萬五千圓

移住者拝借金額

但耕地埋築百二十町歩ノ  
費金及并ニ付百二十町歩

此年賦收入

起業初年

据置

同二年目

甲号規則第二章第十三  
條ノ通り毎翌年一月申  
ニ込納ノ金ナリニヨリ  
本年ハ收入ナリ

同三年目

金貳千七百圓

起業二年目分年賦金ニ当  
ル以下之ニ依テ

但甲号規則第二章第九條ニ掲記ノ如ク起

業二年目ヨリ四年目迄三年間ハ左及歩ニ  
付式田廿五畝宛ヲ百二十町歩ヨリ收入一  
ヶ年分如此且又同条但書ノ通り殖利ノ為  
メ之ヲ銀行ニ預クル力又ハ公債証書ニ換  
ヘ縣廳ニ於テ相當殖利ノ法ヲ設クヘシ其  
利子ハ凡年六朱ヲ目的トス  
但 昨六朱即チ  
此利金百六拾貳圓

同四年目

金貳千八百六拾貳圓 前年越高  
金貳千七百圓 該年收入  
小以金五千五百六拾貳圓  
此利金三百三拾三圓 左以下ノ端數ハ降リ

同五年目

金五千八百九拾五圓 前年越高  
金貳千七百圓 該年收入  
小以金八千五百九拾五圓  
此利金五百拾五圓

同六年目

金九千百拾圓 前年越高  
金三千貳百拾圓 該年收入  
但本年分ヨリ向フ三年間一及歩ニ付金  
貳四七十錢宛ヲ收入百二十町歩テ如此  
小以金壹万貳千三百五拾圓

此利金七百四拾壹圓

中略

同九年目

金貳萬千七百八拾三圓

前年越高

金三千七百八拾圓

該年收入

但本年分ヨリ向フ年々一及半ニ付金三

四十錢宛ヲ收入百二十町步ニテ如此

小以金貳萬五千五百六拾三圓

此利金千五百三拾三圓

中畧

同二十三年目

金拾三萬三千四百四拾壹圓

前年越高

金三千七百八拾圓

該年收入

小以金拾二萬七千貳百廿壹圓

此利金八千貳百三拾三圓

同二十四年目

金拾四萬五千四百五十四圓

前年越高

本年ニ至リ移住者ノ拝借義務ニ係ル耕

地埋込入費百二十町步分即チ十四万五

千圓ノ高ニ達スルニ付返納完了セルモ

ノトシ甲号規則第ニ章第九条但書ノ通

リ移住者ヨリ曹テ縣廳ニ納レ置キタレ

証書面ノ金高ニ拘ハラス特免スルモノ  
トス茲ニ於テ移住者ノ上納金額及歩  
ニ付合メ六十或四十幾ナリ尤縣廳ノ本  
省ニ對シ拝借スル処ハ尚壹方五千圓ヲ  
残ヌヲ以テ今ニケ年間殖利スヘシ  
此利金九千四百八圓

中略

同二十六年目

金拾六方三千四百三十壹圓 前年越高

茲ニ於テ乙号豫算書ニ明記セル甲号規  
則第二章ニ當タル移住者授産ノ資本拾

六万圓ヲ引去リ尚三千余圓ノ高ヲ残ス  
ト亟モ元来沿湖埋築耕地ハ水腐ノ災ア  
ルヲ以テ同章第十條ニ示ス如ク幾年歛  
ノ猶豫ヲ算入セサルヘカラス然ルハ  
利金ニモ幾多ノ減額ヲ生スルヲ以テ拜  
借ノ年ヨリ起リ今四ケ年ノ餘地ヲ與ヘ  
都合三十ケ年ノ据置ヲ許可セラレシ  
ヲ乞フモノナリ

丁号

耕地埋梁塲所見江并入費豫算

一總及別百貳拾兩步

此入費合金拾四萬五千圓

但總平均壹及步二分金百貳拾四八拾三錢強

此譯

及別六拾兩步 近江國蒲生郡岡山近傍寄洲

但平均六尺深

內 五尺 盤土即千圓山、土ヲ用工  
壹尺 上面味土近傍沼泥ヲ用工

此入費金七萬三千七百圓

內

金千貳百圓

盤土立積拾五万坪買入  
代價

但一及三石立積二百五十坪  
ヲ要シ此代價金貳圓ノ割

金四万八千圓

埋築之ニ廿四万人賃錢

但由人ニシテ敷坪半ヲ埋立  
積リテ一及歩ニ四百人

金壹万八千圓

味土平積拾八万坪厚壹  
採収人ニ九万人賃錢

但一人ニ坪ヲ採収シ  
壹及歩ニ分百五十人

金四百八十圓

地均ラシ人ニ二千四百  
賃錢

ヲ要シ壹人廿五ノ割

但壹及歩ニ分四人  
ヲ要シ壹人廿五ノ  
割

金三千三百七拾五圓

波戸千間高廿平均九尺

幅六尺ニ築立石工  
九千人賃錢

但水中ニ分立積壹坪  
ニ分五六人ニ壹人

金千五百圓

石立積壹坪買入代價

但長ヤ千間ニテ高九尺  
幅六尺ナルヲ以テ千五百

坪ヲ要スヘケレ



五百坪ハ在来ノ  
石ヲ用エルヲ以テ千坪  
下ノ立積壹坪代價  
壹町五十步ノ割  
溝ヲ養水路其外諸費  
見江

金千百四拾五圓

及別貳拾五町步 同國坂田郡磯ノ内湖沼

但平均五尺深上々

内四尺 盤土湖辺川先キノ砂ヲ用エ  
上味土即チ該沼ノ泥ヲ用エ

此ノ費金貳万八千貳百圓

内

金貳万圓

盤砂並積五万坪運搬

埋立人足拾万人賃錢

但二人ニシテ壹坪ヲ埋

立ノ積壹反歩ニ付

土坪貳百坪人足

四百人ヲ要シ壹人

口方ノ割

金六千圓

味土平積七萬五千坪

採收買入代價

但壹反歩ニ付平積

三百坪ヲ要シ壹坪

分代價金八匁ノ割

金貳百圓

地均ラシ人足千人

賃錢

但是及歩二分四人ヲ  
要シ壹人廿錢ノ割

外田ニ月稅六千四百

本買入レ代價

但水際八百間壹間ニ月  
稅八本ヲ要シ壹本  
金三匁ノ割

金四百八拾圓

但石垣高六尺片側  
八百間築立人足貳千  
四百人賃錢

但平積壹坪積立テ  
要人足三人ヲ要シ壹人

廿匁ノ割

金六百圓

石平積八百坪買入レ  
代價

但壹坪ニ分金七拾  
五匁ノ割

金七百貳拾八圓

溝並養水路其外諸雜  
費見テ

及別貳拾四歩

同國野洲郡本濱村寄洲

但平均四尺築立テ

内三尺

盤土

野洲

川ノ

砂ヲ用エ

邊傍ノ

沼泥ヲ用エ

此入費金貳万四千四百圓

内

金壹萬貳千四

盤砂立積三萬坪運搬  
人貳六萬人賃錢

但壹及步二分立積

百五十坪ヲ要此人貳

三百人壹人廿戈

割

金九千四

味土平積六萬坪採収  
代價

但壹及步二分平積

三百坪ヲ要壹坪

代價十五戈ノ割

金百貳拾四

地均ラ人貳六百人  
賃錢

金千六百八拾七圓五拾錢

但壹及步二分三人  
ヲ要一人廿戈ノ割

波戸五百間高々平均

九尺幅六尺深立石

二四千五百人賃錢

但水中二分立積壹

坪二分五六人壹人

二十七戈五庫ノ割

金千百貳拾五圓

石立積七百五十坪

買入代價

但立積壹坪分代金

壹圓五十戈ノ割

金四百六拾七圓五拾錢

溝渠養水路其外諸費

見江

及別於五町步 同國東太郡下物村字鳥丸沼

但平均六尺深立テ

内五尺 盤土近傍川々ノ砂ヲ用ユ  
壹尺 上面味土 削テ該沼ノ泥ヲ用ユ

此ノ費金壹万八千七百圓

内

金九千圓

盤砂立積三万七千

五百坪運搬人足四万

五千人賃錢

但壹反歩ニ付貳百

五十坪ヲ要シ人足三

千ニ坪半ヲ運搬

金九千圓

ノ積ニテ壹反歩三百人

足人廿五ノ割

味土平積四万五千坪

採收人足四万五千人

賃錢

但壹人ニシテ壹坪ヲ採

收シ壹人廿五ノ割

尤地均ラレヒ

金七拾貳圓

外田ニ用杭二千四百本

買入レ代價

但水際三百間ニシテ

壹間ニ杭八本ヲ要シ

壹本代價三反ノ割

金貳百四拾四

石垣三百間高八尺

片側人足千二百人賃錢

但壹坪二分人足三人

要スル積り平積四百

坪ニテ如此者人廿錢

割

金貳百貳拾五

石平積四百坪買入

代價

但平積壹坪二分金五拾

六先二厘五毛割

金百六拾三

養水路其外諸費見込

以上